

第 11 回 IFA 国際会議
ILC グローバル・アライアンス主催国際シンポジウム

◆◇プロダクティブ・エイジング◆◇

(2012 年 5 月 28 日 13:30~17:30)

於:コンベンションセンター(プラハ)

◇第 1 部 ロバートバトラー博士メモリアルレクチャー◇

議長: Iva Holmerova (チェコ共和国)

* 開会挨拶

- * 第 3 回 ロバート・バトラー博士メモリアルレクチャー
「プロダクティブ・エイジング - 21 世紀の緊急課題」
- Alexandre Kalache (ブラジル)



◇第 2 部 各国におけるプロダクティブ・エイジングの現状と課題◇

議長: Dr Rosy Pereyra (ドミニカ共和国)

- * プレゼンテーション① (フランス、日本、イギリス)
- Françoise Forette (フランス)、水田邦雄 (日本)、
Baroness Sally Greengross (イギリス)



先進 3 カ国の報告では、高齢者が健康で社会と関わり続けるために何が必要かについて、それぞれの国の状況や課題が示された。

特に日本の就労や社会参加の具体的な例やメタボ検診などの試みは、興味と関心をもって受け止められた。

- * プレゼンテーション② (中国、インド)
- Du Peng (中国)、Jayant Umranikar (インド)

- * プレゼンテーション③ (イスラエル、シンガポール)
- Susana Concorde (シンガポール)、Sara Carmel (イスラエル)

*** プレゼンテーション④** (チェコと CEE (Central Eastern Europe) 諸国)
- Iva Holmerova (チェコ共和国)



議長: Baroness Sally Greengross (イギリス)

*** プレゼンテーション⑤** (アルゼンチン、ドミニカ共和国、南アフリカ、オランダ)



Lia Daichman
(アルゼンチン)



Rosy Pereyra
(ドミニカ共和国)



Monica Ferreira
(南アフリカ)



Marieke van der Waal
(オランダ)

*** 質疑応答** 司会 : Alexandre Kalache (ブラジル)

会場の参加者からは、特に高齢者の就労の現実についての様々な事例が紹介された。現実的には就労の機会がなかなかないこと、また現在就労中の高齢者に対しても、若年層の雇用促進を理由にして退職が強要されていることなどが、残念な報告として挙げられた。

このような厳しい現実があることは事実だが、高齢期であってもその能力を十分活用できるという実証を積み重ねていくことで、意識改革を図る必要があることを確認した。

